

研究実施のお知らせ

2023年9月27日 ver.1.0

研究課題名

膵腫瘍切除後残存膵サーベイランスに関する後ろ向き研究

研究の対象となる方

2012年4月から2023年3月までの間に島根大学医学部附属病院で膵腫瘍切除術を受けられた方

研究の目的・意義

膵がんや膵管内乳頭状粘液性腫瘍に対する手術症例の増加に伴い、手術後の残存膵に関する長期経過が報告され、3-22%に膵癌などの新規病変を発症することが明らかになってきました。現在膵がんや膵管内乳頭状腫瘍の術後サーベイランスについてエビデンスのある方法はなく、どのような症例に残存膵の新規病変を認めやすいかは明らかになっていません。以上の背景から今回の研究を計画することとなりました

この研究は、これまで島根大学医学部附属病院で行われた膵腫瘍に対する手術症例を後ろ向きに解析し、残存膵新規病変の特徴、適切なサーベイランス方法を明らかにします。また術前診断、基礎疾患、家族歴などの患者側因子と診断方法、術式などの医療側因子が残存膵新規病変発症に与える影響を明らかにします。これらを明らかにすることで、適切なサーベイランス方法の確立が可能になると考えます。

研究の方法

利用する診療情報の項目：以下の項目を取得します。

- 1) 年齢、性別
- 2) 糖尿病の有無
- 3) 膵疾患家族歴
- 4) 術前検査方法（膵液細胞診、膵管ドレナージの既往など）
- 5) 術前診断（部位、大きさ、数）
- 6) 手術内容（日付、術式）
- 7) 原疾患の病理診断（組織診断、ステージ、根治度）
- 8) 術前、術後化学療法の有無

- 9) 術後画像検査（日付、検査内容、検査結果）
- 10) 原疾患の再発の有（日付、病理診断）または無
- 11) 残存腭新規病変の有（日付、病理診断）または無
- 12) 最終診察日

研究の期間

2023年11月（研究許可後）～2025年3月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院消化器内科 福庭暢彦

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2024年5月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院消化器内科 福庭暢彦

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2190 FAX 0853-20-2189